

令和6年子供に関する定点調査「とうきょう こども アンケート」 検討会議（第4回）次第

日 時 令和6年9月10日（火）午前10時から12時まで
開催場所 東京都庁第一本庁舎 33階特別会議室 S5

1 開会

2 議題

- （1）会議スケジュールについて
- （2）最終報告書（案）について
- （3）次年度に向けた改善点について
- （4）子供向け報告書（案）について

3 閉会

【配布資料】

資料1 令和6年子供に関する定点調査「とうきょう こども アンケート」検討会議
委員名簿

資料2 令和6年子供に関する定点調査「とうきょう こども アンケート」
第4回検討会議

令和6年子供に関する定点調査
「とうきょう こども アンケート」検討会議 委員名簿

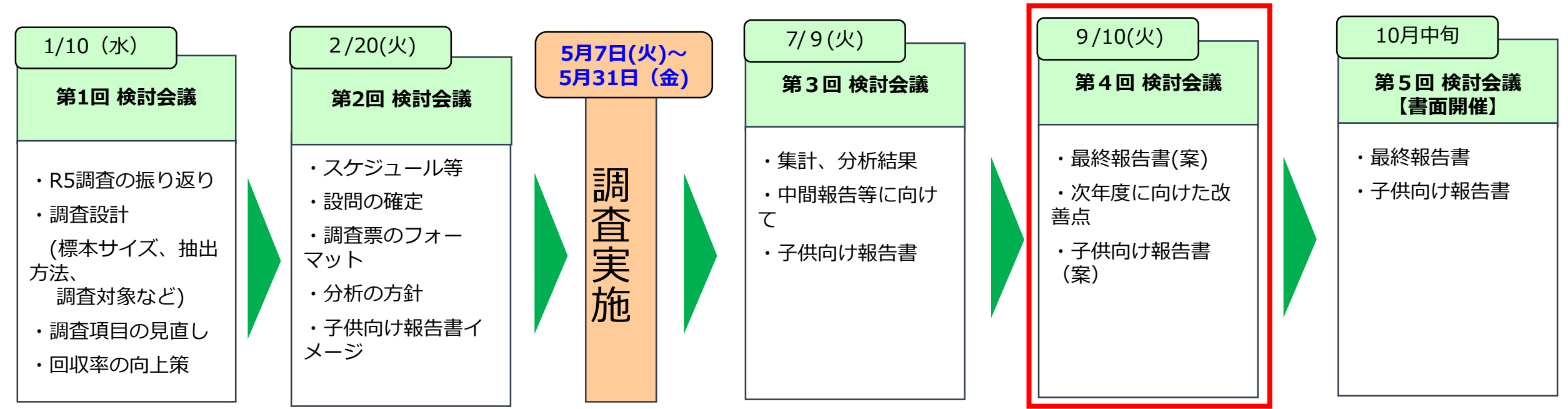
(敬称略、五十音順)

氏 名	所属・役職等	
池本 美香	株式会社日本総合研究所 上席主任研究員	外部委員
土屋 隆裕	横浜市立大学教授	
西田 淳志	公益財団法人東京都医学総合研究所 社会健康医学研究センター長	
松原 康雄	明治学院大学名誉教授	
森田 明美	東洋大学名誉教授	
渡辺 由美子	認定特定非営利活動法人キッズドア理事長	
小松 義昌	東京都子供政策連携室企画調整部長	内部委員
高橋 祐介	東京都子供政策連携室企画調整部 企画調整課長	
鈴木 孝典	東京都子供政策連携室企画調整部 企画調整担当課長	

令和6年子供に関する定点調査 「とうきょう こども アンケート」 第4回検討会議

2024年9月10日（火）
東京都子供政策連携室

1. 会議スケジュール



2. 最終報告書（案）について

■最終報告書の構成案

- ・ R5調査の最終報告書をベースに、一部内容を変更する

目次		R5調査最終報告書からの主な変更点
調査報告書要旨		
	1. 調査結果の概要	Ⅱ の調査結果を踏まえて今後作成
	2. 主な調査結果	
Ⅰ . 調査の概要		
	1. 調査の目的	時点更新
	2. 調査の項目	
	3. 調査の設計	
	4. 検討会議	
	5. 調査機関	
	6. 各調査対象の設問数	
	7. 回収結果	
	標本抽出方法	
	標本数の配分	
	抽出	
	報告書の見方	

2. 最終報告書（案）について

目次		R5調査最終報告書からの主な変更点
Ⅱ. 調査結果		
1. 子供編		変更点② 経年比較が可能な場合は、各設問（全体・学年別）に経年比較（R5調査との比較）を追加し、5%水準で有意かつ5ポイント以上差がある場合に解説している ※11段階評価の設問は平均値で経年比較の上、5%水準で有意である場合に解説している
2. 保護者編		
		変更点③ 子供の幸福度クロスは、幸福度を表頭に、各設問を表側にしてクロス集計を実施
		変更点④ 複数回答の設問を経年比較する場合は、棒グラフでは視認性が悪いため、数表に変更
3. その他		
(1)ギャップ分析		
【子供と保護者の差】		継続して実施
【男女の差】		継続して実施
(2)テーマ別		変更点⑤ テーマ別に個別クロス集計を新規実施
【子供の意見表明】		
【安全安心】		
【学校生活】		
【学び・成長】		
【居場所・遊び】		
【地域社会】		
【子育て】		
(3)他調査比較		継続して実施
(4)重回帰分析		変更点⑥ 学年別に重回帰分析を実施

3. 次年度（R7調査）に向けた改善点について

■ 調査方法

サンプルサイズを同規模で確保し、経年比較を適切に行うため、原則、**R6調査方法を継続**する

項目	R 6 調査方法	R7調査方法（案）
調査時期	令和 6 年 5 月 7 日から 5 月 31 日まで	令和 7 年 5 月 頃（4 週間程度）
調査対象・配布世帯数	・調査対象：小学 3 年生、小学 5 年生、中学 2 年生、17 歳の子供及びその保護者、3 歳児の保護者 ・配布世帯数：合計 10,500 世帯	左記と同様
調査方法	郵送法（郵送配布・郵送回収、WEB（インターネット）回答併用）	左記と同様
抽出方法	層化二段無作為抽出法	左記と同様
同封物	・挨拶状 ・前年の調査結果の概要ペーパー(子供向け) ・東京都こども基本条例ハンドブック ・粗品（ボールペン及び除菌ウェットティッシュ）	左記と同様 ただし、粗品の内容については今後検討
謝礼	回答した子供に対し、500 円分の謝礼を送付 （小学生は図書カード、中学生・17 歳は Amazon ギフトカード）	左記と同様 ただし、内容は今後検討
その他	・調査期間中に督促状を送付 ・都の広報媒体（X など）を通じて、事前に調査実施する旨を周知	左記と同様

3. 次年度（R7調査）に向けた改善点について

■設問

- ・調査の継続性を担保する観点から、R6調査と**同じ設問を原則**とし、R7調査における検討会議の議論も踏まえて**適宜見直し**を行う
- ・出前授業において小学生から設問が難しいといった趣旨の意見が多数あったため、**小学生の調査票にユーザーテストを実施**するなど、子供が分かりやすく回答しやすい表現となるような調査票を作成する

■分析

- ・R6調査と同様の分析を実施

共通クロス集計（学年別・区市町村別・幸福度別）、個別クロス集計、経年分析、ギャップ分析（男女や親子）、他調査比較、重回帰分析

■報告書

- ・R6調査と同様に、中間報告書、最終報告書、子供向け報告書（小学3年生、小学5年生、中学生/17歳向けの3種類）を作成する
- ・新たに、R5調査からR7調査までの**経年データをまとめた付属資料**を作成する

3. 子供向け報告書（案）について

■子供の意見聴取（個別インタビュー）

- ・都内の小学3年生、小学5年生、中学2年生、17歳の各5名に、報告書の初版について意見聴取（8月下旬実施）
- ・内容やデザインに反映し、対象年齢に応じてわかりやすい報告書を作成

	小学3年生	小学5年生	中学2年生	17歳
内容	・文字の大きさ、内容の難易度はちょうどよい ・意味がわからない言葉がある（区部・市町村部、条例、政策、親せきなど） ・都の取組を具体的に書いて欲しい	・意味がわからない言葉がある（区部・市町村部、相談員など） ・グラフの項目が多い ・グラフの意味がわからない ・都の取組を具体的に書いて欲しい	・表紙で同年代のアンケート結果であることがわかるようにした方がよい ・グラフの項目が多い ・文章が多い、ごちゃごちゃしている ・重要な文章は強調したほうがよい ・中2と17歳で強調する部分は揃えた方がよい	・表紙の「とうきょうこどもアンケート」が子供っぽい ・グラフの項目は1位、2位、3位の順にした方がよい ・グラフがわかりづらいものがある ・文章が多い、ごちゃごちゃしている ・重要な文章は強調したほうがよい
デザイン	・グラフの色が区別しづらい ・文字（注釈部分）が小さい ・サイズ（A4）はちょうどよい	・グラフの色が区別しづらい ・タイトルはもっと大きくした方がよい ・グラフのランキング上位の項目が目立たない ・サイズ（A4）はちょうどよい	・グラフの色が区別しづらい ・全体的に緑が多いので、グラフなどは色がよかった方がよい ・サイズ（A4）はちょうどよい	・グラフの色が区別しづらい ・カラーが緑系で統一されているのはよい ・サイズ（A4）はちょうどよい
対応方針	✓ わかりやすい表現に修正 ✓ グラフの色味を調整 ✓ 文字を可能な範囲で大きく ✓ こども未来アクションをQRコードで案内することで、都の取組を紹介	✓ わかりやすい表現に修正 ✓ グラフを修正（項目を絞る等） ✓ グラフの色味を調整（太字、色追加等） ✓ こども未来アクションをQRコードで案内することで、都の取組を紹介	✓ 表紙を修正（タイトル等） ✓ 文章を整理 ✓ グラフを修正（項目を絞る、グラフの種類を変える等） ✓ グラフの色味を調整（太字、色追加等）	